巻頭言

教師の協働による知の共創

岡山大学学術研究院教育学域　服部　裕一郎

このたび，令和４年４月に岡山大学に着任いたしました。私はこれまで，広島県の私立中・高等学校及び国立中・高等学校で９年間，数学科教諭として勤め，その後，高知大学教育学部で９年間，教育・研究に携わって参りました。一言に数学教育研究といっても切り口は膨大にありますが，自身の研究テーマとしては「数学教育における批判的思考力の育成」，「批判的数学教育学」，また最近は，数学的モデリング研究のなかでも近年注目されつつある「社会批判的モデリング（socio-critical modelling）」に関心があります。一方で，現場の経験が長くあったことからも，シンプルに，算数・数学の良い授業とはどのようなものかを日々，追究していきたいと考えています。子どもたちに価値ある数学的活動を実現してもらうためには，教師による真摯な教材研究が不可欠です。先生方と一緒に，より良い算数・数学の授業づくりができればと思っております。微力でございますが，この岡山の地で，一生懸命頑張りますので，御指導・御鞭撻のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

さて，本年３月１３日より「マスク着用は個人の判断」を基本とすることが示され，私たちの日常生活も少しずつですが戻りつつあるように思います。その間，教育現場ではGIGAスクール構想のもと１人１台端末の実現と，教室では通信ネットワークの一体的整備がなされました。社会構造も急速に変化する中で，最近示された中教審答申では，令和の日本型学校教育の姿として，全ての子どもたちの可能性を引き出す，「個別最適な学び」と，「協働的な学び」の実現が目指されています。今後はそのような学びを算数・数学授業に如何に実装するかが私たちに求められた具体的課題であると考えます。私自身，その課題解決には教師による「協働」もまた重要であると最近強く感じています。オンラインが急速に普及した中で，理論研究，実践研究ともに，物理的距離を超えたインタラクティブな議論が大変しやすくなりました。オンラインによって，全国の先生方との新しい出会いもまた可能にさせてくれたように思います。協働で授業を創ることや研究を行うことは，自分には無かった新たな視点を得ることにも繋がります。先生方は，子どもたちにどのような力をつけたいでしょうか。またその力を育成するためにどのような教材を扱い，授業ではどのような手立てを講じられていますでしょうか。あるいは日頃，算数・数学授業のどのようなことに困っていますでしょうか。そのような経験値や困り感を，若手・ベテラン問わず様々な先生方が一緒になって共有し，それぞれの先生方の叡智を結集させていくことが，より良い授業づくり，またより良い研究に繋がると確信しています。まさに目的を共有した集合知による共創です。

> *数学教育学は，いうなれば実践学である。その課題はつねに教育実践のなかから意識され，その成果はつねに教育実践に反映させねばならない。従って，数学教育の現状分析ということは，数学教育学研究の出発点において，欠くことのできないものである(平林, 1987, p.28)*

最後に平林先生のお言葉を紹介させていただきました。今，目の前にいる子どもたちの現状をしっかりと分析し，With コロナ時代に求められる算数・数学教育を先生方と一緒に考えていければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。